

令和4年度 出雲養護学校 校内研究まとめ  
(3カ年研究 3年次)

【研究テーマ】

めざす姿を明確に  
～カリキュラム・マネジメントの実践を通して～

I 本年度の研究について

1 本年度の研究の背景

本研究は、学習指導要領の中で示された社会に開かれた教育課程の実現のために、本校でのカリキュラム・マネジメントを推進することを目的としてスタートした。本校においては、令和3年のしまね魅力化ビジョン、昨年度末に決定した本校のグランドデザインに基づき、学校・地域・家庭が連携した取組がより一層進められてきている。このような背景の中で、本校のカリキュラム・マネジメントを推進するためには、学校が目指す児童生徒像（めざす姿）を明確にした授業実践とその振り返りを重ねることが必要であると考えた。

2 本年度の研究の目的

学習指導要領、しまね魅力化ビジョン、グランドデザインを踏まえ、カリキュラム・マネジメントの視点をもった授業実践を通し、本校のカリキュラム・マネジメントの推進をする。

(研究3年間を通した目的)

目指す児童生徒像・育成したい力の具現化及び授業実践を通したカリキュラム・マネジメントの取組を推進する。

3 本年度の研究の内容

- 「育てたい力」を明確にした授業実践をカリキュラム・マネジメントの視点から検討する。
- 「育てたい力」をグランドデザイン、キャリア教育計画と関連づけて整理する。

4 研究計画(3カ年計画)

- 1年次 各研究グループでの「育てたい力」の整理と授業実践
- 2年次 授業実践を通しての「育てたい力」の検討
- 3年次 カリキュラム・マネジメントの視点からの授業実践の検討

5 研究グループ

本校各学部、肢体不自由部門、寄宿舍、各分教室(全9グループ)

6 研究のスケジュール

	全体	内容1(研究Gごとに)	内容2
4月			
5月	研究計画提案		
6月		育てたい力の整理 授業実践①	
7月			
8月	授業魅力化シート交換会 グランドデザイングループワーク		グループワークのまとめ (研修部)
9月	研究中間報告	授業実践②	各学部目指す姿の研修部案
10月			委員会・関係分掌
11月	研究のまとめ方お知らせ		魅力化協議会での協議
12月			
1月		研究のまとめに向けて	保護者コメント
2月	研究報告会		
3月			

7 研究のためのツール

各研究グループが、方向性を揃えて校内研究に取り組むことができるよう、全校で共通の様式(授業魅力化シート)(別

紙1)を作成した。授業魅力化シートは、育てたい力→授業→カリキュラム・マネジメントの視点からの検討という流れで記入欄を設定し、シートの記入を通して、カリキュラム・マネジメントの視点で振り返りができるようにした。授業魅力化シートは、1学期末、2学期末の年2回の提出とした。

II 各研究グループの実践

各研究グループで計画を立てて取り組んだ。その際、各グループの昨年度までの経緯を踏まえることとした。研究の内容として、独自の内容に取り組んだグループもあった。各研究グループの取組については、表1で示した。

各グループの実践内容は、年度末の研究報告会で、動画の視聴を行い、教職員間で共有した。

III 結果

1 「育てたい力」の検討について

(1) 「育てたい力」とキャリア教育との関連の検討

授業グループごとに、2年次までに考えた育てたい力の見直しを行い、新たに本校のグランドデザインとの関連を整理した。授業魅力化シートに記載された「育てたい力」の検討内容は、以下の通りであった。

- 育てたい力について、実施した授業で見られた具体的な姿や有効だった支援や評価の方法について共有した。
- 育てたい力とキャリア教育の4つの視点との関連を検討し、キャリア教育とのつながりを考えた。

(2) 魅力化交換会

夏季休業中、本校・分教室の教師、寄宿舍職員の全員が集まって、魅力化シートをもとに実践を紹介し共有した。各学部・分教室・寄宿舍混合の14グループとし、1グループの人数は、12～13名程度とした。他学部・他分教室・寄宿舍の児童生徒の実態や授業の様子を情報交換し、感想や意見を出し合った。

2 カリキュラム・マネジメントの視点からの検討

授業魅力化シートの記載事項をもとに、「カリキュラム・マネジメントの検討(図1)」を作成した。

【まとめの方法】

- ①授業魅力化シートに記載された「授業の魅力」をGTA法を参考にして、カテゴリー分けした。
- ②2学期の実践を踏まえ、1学期に作成したカテゴリーを見直し、修正した。

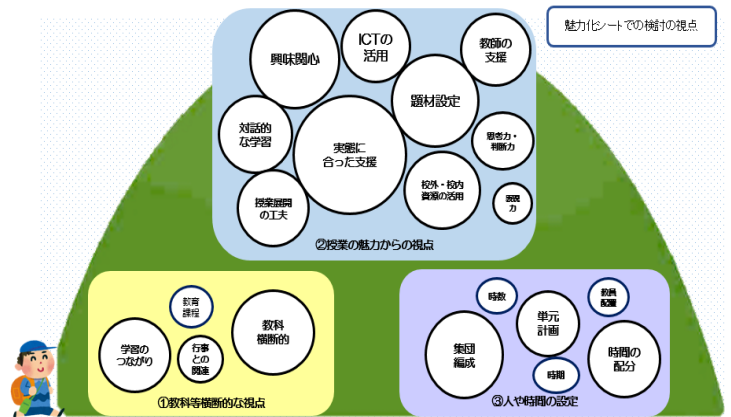


図1 カリキュラム・マネジメントの検討

- 様々な視点からの授業の検討があった。
- 時数や効果的な集団編成等の視点からの検討があった。
- 他教科との関わり、行事や他学習とのつながりについての記述など、教育課程の見直しにつながる検討があった。

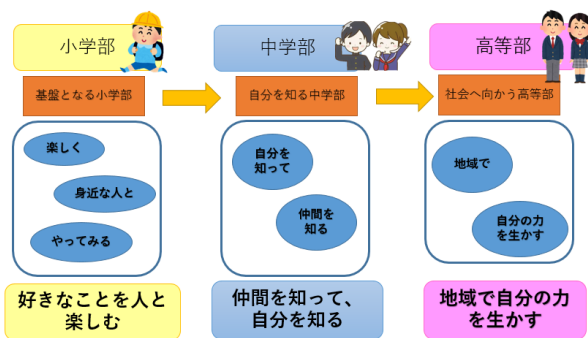
### 3 「各学部の目指す姿」の作成

(1) グランドデザインについてのグループワーク  
 夏季休業中の魅力化交換会のグループで、グランドデザインについてのグループワークを行った。

【テーマ】  
 「地域で生きる人になるために、どんな子どもに育てほしいか」

上記のテーマで、「小・中・高の段階でどんな子に育てほしいか」について付箋に記入した。意見をまとめ、テーマに沿った各学部のキャッチコピーを考えた。

グループで話し合った意見とキャッチコピーの内容を研修部で分析をして小学部・中学部・高等部の段階での目指す児童生徒像を図2にまとめた。



(2) 委員会、関係分掌、魅力化協議会での提案・協議  
 キャリア教育推進委員会、教育課程検討委員会、分掌、いすよう魅力化協議会(学校運営協議会)に、研修部案を提案し意見をもらった。以下のような意見が挙がった。

- 各学部の姿は、学部ごとに区切れるものなのか。目指す姿が積み重なっていくのではないのか。
- 中学部の「仲間を知って、自分を知る」について、仲間を知る→自分を知る という順番でよいのか。
- 子ども・地域・保護者の意見を聞きながら作っていいかとよいのではないのか。

意見を参考にしながら、初回の研修部案を修正して「各学部の目指す姿(図3)を作成した。

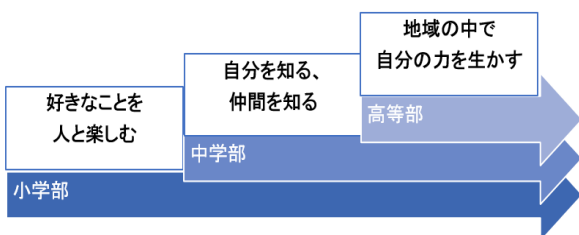


図3 各学部の目指す姿

(3) 保護者コメントの実施

「各学部の目指す姿」について保護者の感想や思いを聞き取るために、内容と作成の経過についてまとめた動画(3分)を作成し、YouTubeにて保護者限定でアップロードした。Google Formsでアンケートを作成し、動画とアンケートをスクールメールで保護者に配信し、アンケートの記入をお願いした。アンケートに記述された内容の一部は以下の通りだった。

「これまででは、『地域で生きる人』になるために、地域の人や事業所とつながりを持ちながら我が子を知ってもらおう。」という漠然とした思いだった。動画を見て、学校生活を通して新たに見える子の姿を先生方と情報交換・共有したりするということが大事なことだと思った。

- 小学部に在籍しているが、これから進学していくことに不安もある。その不安が少し解けたような動画だった。
- 是非そういう形で成長していってほしいなと思った。

### IV 成果(○)と課題(●)

#### 1 「育てたい力」に迫る授業実践を、カリキュラム・マネジメントの視点で検討したことについて

○グランドデザインの目指す児童生徒像「地域で生きる人になる」を具体化するための「育てたい力」を児童生徒の実態から考えることができた。

○魅力化交換会で、他学部・他分教室の育てたい力と育てたい力に迫る授業を知ることによって、育てたい力の学部間のつながりを考える機会となった。

○魅力化シートをツールとしたことで、大規模校で研究の方向性を揃えた取組につながり、シートに沿って記入していくことでカリキュラム・マネジメントにつながる振り返りを行うことができた。

●今年度検討した、カリキュラム・マネジメントの視点からの振り返ったことを、今後の教育課程や指導計画につなげていくことが必要である。

#### 2 グランドデザイングループワークを行い、各学部の目指す姿を考えたことについて

○授業グループごとに考えた「育てたい力」の学部間のつながりや、12年間を見通したキャリア教育の視点で考えることにつながった。

○グランドデザインの「地域で生きる人になる」という目指す児童生徒像について、年齢や段階に応じた具体的な姿を教師と寄宿舎職員の全員で考える機会となった。

○学校で検討した案について、魅力化協議会で協議をしたり、保護者コメントで保護者の方からの意見をもらったりすることで、学校の目指す児童生徒像を地域・家庭と共有することができた。そのことは、カリキュラム・マネジメントの推進につながる取組であった。

●今年度考えた「各学部の目指す姿」を、授業づくりに生かしていけるような仕組みを作っていけるとよい。

### V 3年間のまとめ

3年間の校内研究の取組を通し、「育てたい力」に迫る授業実践とその振り返りを積み重ねることで、日々の授業は、学校が目指す児童生徒像を実現するためのものであることを意識できた。それぞれの授業グループの「育てたい力」について、全教師でつながりを検討したり、地域や保護者の意見や思いを聞いたりしながら「各学部の目指す姿」としてまとめたことは、学校・地域・家庭が連携した取組となり、カリキュラム・マネジメントの重要な部分を担う取組でもあった。カリキュラム・マネジメントは絶えず実践と振り返りを繰り返しながら推進していくものであり、この3年間の研究で得た成果をさらなるカリキュラム・マネジメントにつなげていきたい。

<参考文献>

一木薫著 「特別支援教育のカリキュラム・マネジメント 段階ごとに構築する実践ガイド」 慶應義塾大学出版会

代表執筆者

島根県立出雲養護学校 藤岡里恵  
 (令和5年3月)

グランドデザイン 目指す児童生徒像		地域で生きる人になる		
キャリア教育 地域で生きる力の育成	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
様々な学習や生活の中で 活用できる知識の獲得				
獲得した知識を活用して 課題を解決する力				
自己理解を深め、困難に 負けず主体的に取り組む 力				

単元名 「 \_\_\_\_\_ 」

目指す姿

○

目標の明確化・共有

目標

教科・領域名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう人間性
○○			
○○			
○○			

教科・横断的な視点

学習の流れ 略案・密案を別紙で添付してください。

この授業の魅力は？

<この授業の魅力のアピールしてください>

- ・学校経営プランの重点テーマ「思考力・判断力」の観点から
- ・校内、地域の人・もの・ことの活用
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・探究的な学び
- ・ICTの活用
- など

子どもをどのように  
支援するのか

どのように学ぶか

授業の振り返り

- ・授業内容・支援で育てたい力を育てることができたか？
- ・こんな支援・学び方が育てたい力に迫るために有効だった。
- など

何が身についたか

育てたい力の視点か  
らの学習評価

カリキュラム・マネジメントの視点からの検討（気づき、アイデア、課題など）

- ・集団編成はどうだったか。
- ・学習の時期や時間配分は適切だったか。
- ・他の教科や行事と関連させたり、他の教科でも扱ったりすることはできないか。
- ・教員の配置は適切だったか？（人数や体制）
- など

今後に向けて

表1 各研究グループの研究の概要

研究グループ	研究の概要	実践例（一部抜粋）	育てたい力の検討	カリキュラム・マネジメントの成果	3ヶ年の成果	研究グループ独自の内容
小学部	学年グループでの実践研究	3年生 遊びの指導 「ペーパーランドで遊ぼう」  5年生 生活単元学習 「〇〇タウンをつくらう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>育てたい力の整理・検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合わせた指導の中での各教科の関連を検討</li> <li>集団編成や場の設定の工夫</li> <li>授業で扱う「育てたい力」を絞ることで、教科の目標を明確にした授業づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に合った「育てたい力」の検討</li> <li>児童の支援を担当間で共通理解</li> </ul>	
中学部	学年グループでの実践研究	1年生 生活単元学習 「誕生会をしよう」 2年生 総合的な学習の時間 「チャレンジ・ザ・おしごと」 3年生 総合的な学習の時間 「高等部作業体験に行こう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解、将来を意識した自己課題</li> <li>学年間の段階的なつながり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器の活用</li> <li>適切な授業時数の検討</li> <li>効果的な集団編成（クラス・実態別・本人の希望など）の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学部で大切にしたい視点の検討</li> <li>①生徒の意欲を基盤に、経験を通して知識・技能を身に付ける学習</li> <li>②周囲と関わりながら、自己理解を深める、自己課題を考える学習</li> <li>③将来につながる力のためのICT 機器の活用</li> </ul>	キャリア教育の視点からの検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器の活用</li> <li>経験や他者と直接関わる学習。</li> <li>自己理解</li> <li>他者との関わりの支援が課題</li> </ul>
高等部	作業班ごとの実践研究	総合作業班「新商品を製品化しよう」 製菓班「新商品の開発をしよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>グランドデザインとの関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決型学習の教師の支援の検討</li> <li>協同的な学習を促すチーム作り</li> <li>多くの作業班でのお客様を意識した取組</li> <li>実体験による学び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「育てたい力」の検討を通して、卒業後を見通した目標設定を共通理解</li> <li>作業班での探究的な学びを意識した実践の成果と課題を次年度の教育課程に反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業学習の中で、「探究的な学び」を意識した取組</li> </ul>
肢体不自由グループ	学級グループでの実践研究	令和3年度に検討した教育課程での授業実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>生活単元学習</li> <li>体育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グランドデザインとの関連</li> <li>キャリア教育との関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導の形態の検討</li> <li>効果的な集団編成</li> <li>自立活動、行事や他教科との関連</li> </ul>	（1年次）実態把握を生かし、ねらいを明確にした授業 （2年次）合わせた指導で取り扱う教科、自立活動のねらいを整理した授業 （3年次）授業をカリキュラム・マネジメントの視点（児童の学びがどうだったか）で評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の「教育課程」を検討。教育課程の根拠や理由の「見える化」</li> <li>肢体グループのキャリア教育で育てたい力の段階表を作成。</li> </ul>

寄宿舎	行事や日常生活での実践研究	前期：行事「お楽しみ会」 後期：日常生活「起床、当番活動、食事、自由時間など」	・育てたい力を「選ぶ・考える」に絞る	・行事の集団編成、時期、時間配分について検討 ・「選ぶ・考える」ための適切な支援の検討	・寄宿舎を小さな地域ととらえた取組 ・1年次に「自己理解」、2年次に「相互理解」、3年次「選ぶ・考える」を通して仲間や地域と段階的につながる実践。	
みらい分教室	学部ごとの授業研究	小学部 6年生 1学期 社会科 「天皇中心の国作り」 2学期 社会科 「江戸幕府の政治の安定」	・育てたい力を小学部低学年、小学部中学年、中学部ごとに検討	・体験と学習をつなげる ・児童の思考の流れに沿った単元計画 ・まとめ方の工夫（プレゼンテーションソフト、文章、新聞、パンフレット等） ・表現の工夫 ・ICTの活用など	・育てたい力の検討、共通理解 ・地域での活動と学習をつなげる実践 ・総合的な学習の時間の探究課題の再考や整理が課題 ・カリキュラム・マネジメントを意識した授業づくり	・毎日の振り返りシート「トライ」の実施と評価 ⇒自分を客観的に捉えたり、学習意欲を高めたりすることにつながった。
雲南分教室	各教科での授業研究	音楽「カノン進行で作曲に挑戦」 美術「お正月飾りパート2（寄せ植え風門松づくり）」 国語「伝え上手はどのチーム」	・キャリア教育との関連	・交流会・販売会で地域の方々につながる学習 ・発展的な学習、繰り返しの学習を組み合わせた柔軟な単元計画の検討が課題	・授業を通して生徒のことを語り合う時間増 ・育てたい「人と関わる」ことを意識した授業づくり ・生活単元学習を分教室の全教員で共有 ・ICTの活用については課題。	・個に合った学習内容 ・互見授業の実施 ・コミュニケーションの評価 ⇒3カ年の比較で、評価が高く課題となる項目が明らかに
邇摩分教室	作業学習での授業研究	生活単元学習 「自立した社会人になるために」～校内・現場実習を通して～	・育てたい力とキャリア教育と3つの資質と関連の整理	・効果的な地域資源の活用（地域の外部講師、出雲養護学校の本校、邇摩高校、他学年の生徒との連携） ・集団編成の検討 ・各教科との関連を整理	・縦割りの集団編成のよさを引き出す工夫 ・効果的な地域資源の活用 ・学級と分教室の授業を計画的に連携 ・邇摩高校とのつながり	・現場実習の振り返りシートの作成・活用。
大田分教室	学部での授業研究	小学部 生活単元学習「分教室神楽を作ろう！やってみよう！」 中学部 生活単元学習「ホームページを作ろう」	・キャリア教育との関連 ・グランドデザインとの関連	・地域の伝統行事を題材に、地域の資源を生かした授業づくり ・神楽の学習後に、学んだことを自ら拡げて生かす姿 ・育てたい力に迫るためのICTの活用	・地域活用マップを作成 ・育てたい力の整理・検討 ・地域資源を生かした授業づくり	・大田分教室版魅力化シートを作成